

史跡池上曾根遺跡を未来に伝えるために

—史跡池上曾根遺跡再整備計画—

<概要版>

第1章 計画策定にあたって

■史跡池上曾根遺跡整備計画基本構想

- 基本理念 -

国指定史跡池上曾根遺跡を保存、復元整備するとともに、都市化が進展する地域に広がる歴史公園として都市計画との整合性を図り、都市機能の充実に努め、魅力ある史跡公園として多くの人びとに親しまれ活用される計画とする。

- 基本方針 -

池上曾根遺跡の意義、内容を深く理解できる場

地域の歴史、文化財等に興味をいさぐ契機となる役割を果たす場

都市基盤施設としての緑地・レクリエーション空間として機能する場

■史跡池上曾根遺跡整備基本設計



第2章 現状と課題

■史跡の本質的価値について

弥生時代を通じて営まれた
全国有数の大規模環濠集落

1. 環濠が二重に巡る大規模な集落

二重の環濠で南北 450m以上、東西 320m以上を囲む複合的な構造の集落

2. 集落中心に位置する大型掘立柱建物と大型割り抜き井戸

池上曾根弥生集落の希少性と特殊性を端的に示す遺構

3. 祭祀、生産、生活の場を意識した集落の空間構成

最盛期には集落内の空間を、「祭祀域」「生産域」「居住域」「墓域」などの役割で区分

4. 活発な生産活動と流通拠点

土器、石器、木器、金属器等多種多様な遺物が豊富に出土し、その遺物の特徴から、他地域との活発な交流と生産活動が行われていたことがわかる

5. いまなお地下に眠る、多くの遺構、遺物

今なお多くの重要な遺構・遺物が地下に眠っており、今後の調査等で新たな発見がなされる可能性が高い

6. 弥生時代研究における画期的な成果

世論も巻き込む考古学ブームを生み出し、弥生時代の集落研究に大きく寄与

■本質的価値をどのように伝えてきたか

整備から20年経過し、史跡池上曾根遺跡の本質的価値をどのように伝えることができたか、史跡公園が果たしてきた役割とはどのようなものであるか、史跡池上曾根遺跡整備計画基本構想における基本方針に沿ってまとめる。

池上曾根遺跡の意義、内容を深く理解できる場

池上曾根遺跡の価値を伝えるために復元施設や施設は重要であり、永く維持しておく必要がある。また、それらを活用するための体制づくりも必要である。

地域の歴史、文化財等に興味をいさぐ契機となる役割を果たす場

遺跡や歴史に興味がある・ないにかかわらず、地域の歴史に対する興味や理解を引き出すための仕掛けづくりが必要である。

都市基盤施設としての緑地レクリエーション空間として機能する場

緑地や、休憩できる場所、施設を増やすことで、より市民が集い憩える空間を創出する必要がある。

第3章 再整備および第2期 第2次整備の目指すべき姿

■本質的価値を伝えるために必要なこと

1. 復元建物の維持

管理しやすい状態にし、適切な状態を維持していく

2. 池上曾根遺跡を学ぶために

現在の体験学習を維持する。より一層来館者にその価値を伝えるように努める

3. 弥生の空間と憩いの空間の両立

遺跡の本質的価値に気づく仕掛けづくり、日常的に周辺住民に利用される憩いの空間づくり、長時間滞在できる仕組み作りが必要

4. 情報発信の推進

新しい手法を取り入れながら情報発信を行うことが必要

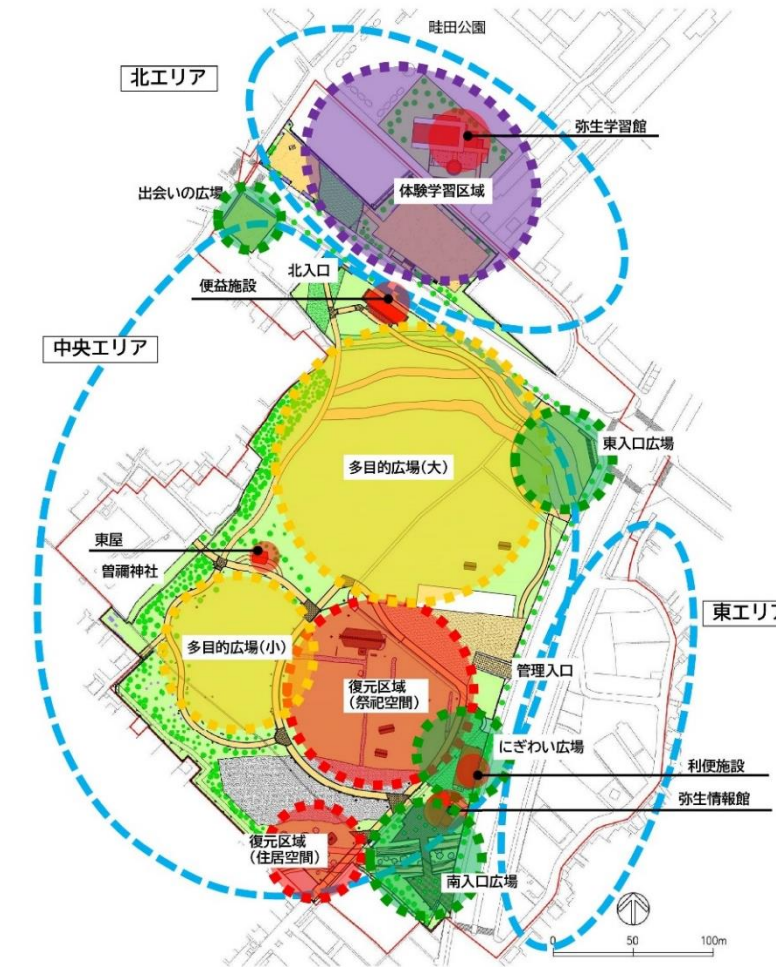
5. 管理・運営

運営メンバーの減少、高齢化により維持管理に手が回らない

協会の体制強化、新たな体制の構築が必要

第4章 全体計画及び個別計画

■ゾーニング



再整備・第2期第2次整備イメージ図

■目指すべき姿

- 池上曾根遺跡の意義、内容を深く理解できる場をふまえ
本質的価値を適切に、わかりやすく伝えられる池上曾根遺跡
- 地域の歴史、文化財等に興味を抱く契機となる役割を果たす場をふまえ
人びとが自然と集い、憩える魅力ある歴史公園
- 都市基盤施設としての緑地・レクリエーション空間として機能する場をふまえ
当時の暮らしを体感できる、「弥生時代の空間」と、「市街地化した周辺と調和」を両立した史跡公園
- これらをより効率的に、未来につなげていくために
維持管理・活用の両面から持続可能な史跡公園

■整備方針

1. 史跡公園を未来へ継承する

- 個別計画を立て機能の充実や拡大を視野に入りたい管理と修繕を行い、当初の機能を再生させる。
- 弥生情報館、弥生学習館、その他施設の長寿命化を図り、持続可能な史跡公園として整備する。

2. 日常をはなれた癒しの演出と、憩いと賑わいを創出する

- 利便施設を整備し、人々が長時間滞在しやすい環境を整える。
- 癒しと憩いの場として利用したくなるような緑あふれる快適な空間を整備する。
- 様々な活動、イベントができ、幅広い年齢層に利用してもらえる多目的な広場を整備する。

3. 弥生時代を身近に感じられ、周辺環境と調和した史跡公園とする

- 弥生時代を体感できる復元施設を再生する。
- 史跡公園全体を周囲から隔絶した空間とすることを見直し、樹木の配置計画を再検討するなど周辺環境との調和と、弥生の空間が共存した史跡公園を目指す。

4. 新たなる活用のためのアップグレードを行う

- 本質的価値を誰でもわかりやすく理解でき、興味をいただけるようなARやVRなどのデジタルコンテンツを整備する。

■管理・運営方針

・管理・運営システムの構築

良好な史跡公園として維持し、より広く活用し、利用者の利便性を高めるために、和泉市と泉大津市が協力した運営システムを構築する。

そのなかで、民間事業者を活用した業務委託・指定管理者制度等、最も適切な運営方針を検討し、そのために必要な施設等の整備や制度設計を行うこととする。

北エリアー体験学習空間ー

弥生時代に関することを実際に体験しながら学ぶことができるエリア

	ゾーン名	整備方針	主な施設
第1期整備地	体験学習区域	体験で弥生時代の技術をまなぶ 池上曾根遺跡について体験を通じて学ぶための施設、設備を整える。 弥生学習館は、泉大津市の畦田公園に隣接することから、公園と連携した管理運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 弥生学習館 体験の広場 自然流路平面表示 多目的広場 手洗い場

中央エリアー弥生体験空間ー

池上曾根遺跡の本質的価値をダイレクトに来訪者に伝える最も重量なエリア

	ゾーン名	整備方針	主な施設
第1期整備地	復元区域 (祭祀空間)	池上曾根遺跡の祭祀をまなぶ 大型掘立柱建物、大型割り抜き井戸を中心に、祭祀に関わる遺構や工房施設、加工施設などを立体、平面復元した区域として再整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 大型掘立柱建物 大型割り抜き井戸 切妻屋根掘立柱建物 寄棟屋根掘立柱建物 小型竪穴建物 立柱・方形井戸 埋納遺構・遺構表示
	復元区域 (居住空間)	池上曾根遺跡のくらしをまなぶ 人びとが日常に居住した空間を復元建物で再現した区域として再整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 埋もれかけた円形竪穴住居 円形竪穴住居 方形竪穴住居 環濠・遺構表示
	南入口広場	池上曾根遺跡の発掘調査をまなぶ 発掘調査時を再現した環濠(現代)を渡って、復元区域(弥生時代)にタイムスリップするイメージの入り口広場。現在、史跡公園のメイン入口として使用している。 池上曾根史跡公園を利用する来園者がまず最初に立ち寄り、池上曾根遺跡の情報を得たり、史跡公園内で行われる情報を入手する区域として再整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 弥生情報館 環濠・遺構表示 現代の広場と弥生の広場
	にぎわい広場	弥生時代のにぎわいをまなぶ 利用者が快適に史跡公園を利用するための広場のある区域として再整備する。 利便施設を設置し、賑わいを創出する。	<ul style="list-style-type: none"> 利便施設 人工芝
	多目的広場 (小)	池上曾根遺跡の環濠集落の広がりまなぶ 多目的広場(大)のサブとして、また小規模なイベント、講座などに対応できる広場として整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 多目的広場 東屋・ベンチ
	管理入口	国道26号から進入できる管理車両入口	管理車両等入口
第2期整備地	東入口広場	池上曾根遺跡の多重環濠をまなぶ JR信太山駅からの動線及び中央エリア、北エリアとの動線を検討すると、将来メイン入口とする方向で整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 舗装の広場 階段 スロープ
	出会いの広場	海と池上曾根遺跡の関係をまなぶ 南海松ノ浜駅からの動線を検討すると、海側から池上曾根遺跡に最初に出会う場所であるため史跡公園へのイントロダクションとしての機能を持たせるような整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 案内看板 多目的広場
	多目的広場 (大)	池上曾根遺跡の環濠集落の広がりまなぶ 規模の大きなイベントやレクリエーションなどに対応できる広場として整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 多目的広場 便益施設
	北入口	府道から史跡公園に進入するための入り口。中央エリアと北エリアをつなぐ入口として整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 階段 スロープ